

観光社会資本の事例

テーマ	水と森の調和した港湾空間
[施設の状況写真] 人々が港の近くで憩える空間として整備。芝生広場からは、長崎港が一望できる。 「大地の広場」「水の庭園」「水辺のプロムナード」のエリアから形成されている。	
[施設の利用写真] 2005 年長崎帆船まつりでは、約17万人の観光客が訪れた。 地域住民の方々の憩いの場としても利用されている。	
[観光資源としての利用状況] 長崎港常盤・出島地区の緑地は、長崎都心臨海地帯の再開発で交流拠点ゾーンとして位置付けられており、水辺を利用したアメニティ豊かな親水緑地として整備された。平成16年3月27日に「水辺の森公園」としてオープンし、様々なイベントが催され、県民や観光客の憩いの場として利用されている。また、平成17年4月には、長崎県美術館が開館し、本緑地は、観光及び芸術文化活動の拠点となる地域づくりの核として期待されている。	

テーマ	水と森の調和した港湾空間
[社会資本の基礎データ] ○名称 長崎水辺の森公園 ○所在地 長崎県長崎市出島町 ○事業名 長崎港港湾環境整備事業(緑地等施設) ○事業主体 長崎県 ○事業期間 平成元年度～平成15年度	
[社会資本の役割・効果] ○港湾の特徴を活かした親水性の高い良好な空間の形成 水路と緑地を活用した親水性の高い快適な空間が創出されており、夜間には公園全体がライトアップされ良好な景観としても、市民、観光客に利用されている。 緑地と併せて整備された岸壁を利用して、毎年帆船まつりが行われる他、クルーズ船が入港し、みなとまち長崎の魅力向上に寄与している。 公園周辺には商業施設が隣接し、また新しく県立美術館が建設されるなど、周辺の観光資源と一体となって整備が進められており、新たな観光ルートとしても期待される。	
[位置図] 	
[関連ホームページ] 長崎水辺の森公園公式ホームページ http://www.mizubenomori.jp/	